

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	登別市児童デイサービスセンターのぞみ園		
○保護者評価実施期間	令和7年11月26日	～	令和8年1月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年11月26日	～	2025年12月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○訪問先施設評価実施期間	令和7年11月26日	～	令和7年12月12日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用児童は、児童発達支援事業と併用しているため、担当職員の利用児童への理解が十分できている。	・通所支援で参加している小集団グループに、訪問担当者が一緒に入って様子を観察したり、グループの担当者から療育中の様子を聞く等、日頃から利用児童に関する情報の共有を意識的に行っている。	・事業所、訪問先機関、保護者の3者で利用児童の発達状況を共有し、児童への理解を深め、集団生活がより良いものになるよう連携していく。
2	・利用児童は、児童発達支援事業と併用しているため、定期的に保護者と面談の機会が得られ、期間を空けずに訪問の報告ができる。	・保護者に支援報告書を提示し、書面だけではなく、口頭で支援内容を詳細に報告している。 ・報告は2～3回の支援後にまとめて行うが、報告が遅れたり滞らないよう留意している。 ・保護者に渡す報告書と同じ物を訪問先にも提出し、共通理解を図っている。	・現状の取り組みを継続する。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問支援員が通所支援と兼務のため、利用人数や地域が限定される。	・訪問支援に必要な知識やスキルを持つ経験豊富な職員が少なく、限られた人員での事業運営を求められる。	・訪問担当者が支援で外勤の際、園内業務のフォロー体制の工夫や検討。
2	・訪問先の教育理念や運営方針等によっては、福祉サービスとしての訪問支援の目的や意図が伝わりにくく、支援対応の理解を得られない場合がある。	・訪問先施設に対しての訪問支援の目的、意図、方法等の説明が不十分。 ・訪問先施設の情報について、支援者側が不勉強であったり準備不足である。	・訪問支援について、訪問先にその目的や意図、保護者のニーズ等を理解して貰うための説明の工夫。 ・訪問先機関について理解するための事前準備。
3			